

17日の国会前でのSEALDs（シールズ）自由と民主主義のための学生緊急行動）の抗議行動で、渡辺治一橋大学名誉教授が行ったアピールの要旨を紹介します。

本当に廃案にするために

国会前抗議 渡辺治一橋大学名誉教授のアピール

(要旨)

戦争法案、衆議院で強行採決されましたが、本当に廃案にするにはどうしたらいいか。

みなさんには、国民の声も聴かない安倍政権のやり方で、戦争法案、強行採決されるんじゃないか。焦りもあるかもしれない。しかし、焦っていません。しかし、焦っているのは私たちより安倍政権です。安倍政権は私たちの運動の中で、二つの大きなミスを犯しました。

一つは、国会の会期を

8月初旬に終わらせるはずを、会期を95日も延長せざるを得なかった。私たちのたたかいの中で6月4日の憲法審査会で3人の憲法学者が違憲と言った。この中で、国会を8月初旬に閉じることはとてもできず、絶対安全を期するため、9月27日まで延ばざるを得なかった。

もう一つは、強行採決は、本当はしたくなかった。それをやれば国民がこの戦争法案をどう見るかわかっている。しかし、それをやらないと間に合わない状況をつくっ



訴える渡辺治一橋大学名誉教授17日夜

た。二つの誤算が安倍内閣を大きく縛ってしま

8月に起きること

なぜ8月に国会を閉じたかったのか。8月になると、戦争法案に加え二つの爆弾が出てきます。一つは、8月中旬に間違

いなく川内原発の再稼働が行われます。安倍は、強い大企業本位の国をつくるため、どんなに国民の反対を受けても川内原発を再稼働したい。

続いて8月の10日すぎには、安倍が執着している戦後70年談話がありま

す。そこでは、戦前の日本

基地について、前知事の埋め立て許可を拒否する決定を翁長沖繩県知事は8月にやると言っている。

原発、戦後の歴史問題の修正、辺野古の新基地の強行。戦争法案がなくても安倍内閣の命を吹っ飛ばすような重大な課題

です。これが8月に出てくる。国会の中で戦争法案とあわせ四つの爆弾を安倍は抱えています。私たちがたたかいを大きくし、四つの爆弾で安倍政権の命運を左右する。これが戦争法案をなくす最大の道です。

夏休み帰省したら

私たち、君たちは何をやったらいいいのか。毎週金曜日ここに来るのは前提です。でもそれだけでは不十分だ。集会が終わったら学園に帰って、1

人でも多くの友だちに、戦争法案がいかに悪いかを話し、ここに連れてくる。余力があれば学習会、シンポジウムを開き、大学で戦争法案について議論する。僕らは喜んで行きます。学者の会、「九条の会」に声をかけてほしい。

もう一つ。夏休みに、地域、郷里に帰るかもしれない。絶対に帰るべきだ。そして、必ず地域で起きている運動に参加してほしい。九条の会は全国に7500ある。10年以上頑張っています。最大の弱点は中高年で、おじさんおばさんが必死に頑張っている。だから君らは、地域に帰り、地域の取り組みに行き訴えてほしい。自分たちはこうしている。ともにたたかおうと。